

スコアシート

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>0 建築物の環境品質・性能</b>						<b>3.1</b>
<b>Q-1 室内環境</b>			0.40			<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.1</b>	0.15	-	-	<b>2.1</b>
1.1 騒音		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 暗騒音レベル		<b>3.0</b>	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		<b>1.9</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.40	3.0	-	
2 界壁遮音性能		2.0	0.30	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	スラブ厚150mm、スラブ面積60㎡、直貼り木質床としている	4.0	0.15	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		2.0	0.15	3.0	-	
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.5</b>	0.35	-	-	<b>1.5</b>
2.1 室温制御		<b>1.4</b>	0.50	-	-	
1 室温設定		<b>1.0</b>	0.60	3.0	-	
2 費節変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		<b>2.0</b>	0.40	3.0	-	
4 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
5 湿度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
2.3 空調方式		<b>2.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.2</b>	0.25	-	-	<b>3.2</b>
3.1 昼光利用		<b>4.2</b>	0.30	-	-	
1 昼光率	腰部分にFIX窓を設けることにより、大きな採光面積を確保	<b>5.0</b>	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		<b>2.0</b>	0.30	-	-	
1 遮光器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		<b>2.0</b>	1.00	3.0	-	
3.3 照度		<b>4.0</b>	0.15	-	-	
1 照度	下面開放型器具(Hf 32W x 2灯) 9台を配置	<b>4.0</b>	1.00	3.0	-	
2 照度均等性		-	-	-	-	
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	3.0	-	
<b>4 空気環境</b>		<b>4.2</b>	0.25	-	-	<b>4.2</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	ホルムアルデヒド以外にもVOCの放散量の少ない建材を採用	<b>5.0</b>	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レンズ効果対策		-	-	-	-	
4.2 換気		<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 換気量	必要換気回数0.3に対し0.42以上を確保	<b>5.0</b>	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		<b>3.0</b>	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.33	3.0	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		<b>1.0</b>	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	小学校敷地内を禁煙としている	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
<b>Q-2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.6</b>	0.40	-	-	<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>4.0</b>	0.60	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画	ハートビル法利用円滑化基準を最低限満たしている	<b>4.0</b>	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ感・景観		<b>3.0</b>	0.50	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.4</b>	0.31	-	-	<b>3.4</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.8</b>	0.48	-	-	
1 耐震性	保有水平耐力比Qu/Qunを1.25以上を目標とした構造設計	<b>4.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.2</b>	0.33	-	-	
1 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>3.0</b>	0.29	-	-	
2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	官庁官庁等の耐用年数資料による	<b>5.0</b>	0.12	-	-	
3 配管・配線材の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.29	-	-	
4 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.29	-	-	
2.3 適切な更新		-	-	-	-	
1 屋上・屋根・外壁仕上げ材の更新		-	-	-	-	
2 配管・配線材の更新		-	-	-	-	
3 主要設備機器の更新		-	-	-	-	
2.4 信頼性		<b>3.0</b>	0.19	-	-	
1 空調・換気設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.29	-	-	<b>3.4</b>
3.1 空間のゆとり			<b>4.6</b>	0.31	-	-	
1 階高のゆとり		各階3.9mの階高を確保	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		耐震壁がなく、純ラーメン架構を採用	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	0.38	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース			3.0	0.22	-	-	
<b>Q-3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>4.5</b>	0.30	-	-	<b>4.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		府内産木材の使用、地域開放施設の整備など	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		コの字型の建物形状の採用、屋上への室外機の設置など	4.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.4</b>
<b>LR-1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.9</b>
1 建物の熱負荷抑制		PAL値が基準値の-16.75%となっている	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			-	-	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	1.00	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR値が32.6%となっている	5.0	0.30	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
<b>LR-2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 節水		節水型機器および自動水栓の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.6	0.60	-	-	
1 雨水利用システム		雨水貯留タンク(500×2基)を設置し屋外施設で利用している	4.0	0.67	-	-	
2 雑排水利用システム			3.0	0.33	-	-	
2 低環境負荷材			3.3	0.85	-	-	3.3
2.1 資源の再利用効率			3.0	0.35	-	-	
1 躯体材料の再利用効率			3.0	0.67	-	-	
2 非構造材料の再利用効率			3.0	0.33	-	-	
2.2 持続可能な森林から産出された木材		内装造作材の一部に京都府内産木材を使用している	4.0	0.04	-	-	
2.3 有害物質を含まない材料			3.0	0.08	-	-	
2.4 既存建築躯体などの再利用			3.0	0.18	-	-	
2.5 部材の再利用可能性		内装は主に乾式工法を採用している	5.0	0.18	-	-	
2.6 フロン・ハロンの回避			3.0	0.18	-	-	
1 消火剤		ハロンを含まない消火剤を使用	4.0	0.33	-	-	
2 断熱材			2.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
<b>LR-3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
1 大気汚染防止			3.0	0.15	-	-	3.0
2 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.15	-	-	3.0
2.1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2.2 振動			-	-	-	-	
2.3 悪臭			-	-	-	-	
3 風害、日照障害の抑制			3.0	0.15	-	-	3.0
3.1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
3.2 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
4 光害の抑制		防犯や災害など必要最低限の機能を確保し周辺へ配慮した計画	5.0	0.10	-	-	5.0
5 温熱環境悪化の改善			2.0	0.30	-	-	2.0
6 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.15	-	-	3.2
6.1 雨水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
6.2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
6.3 交通負荷抑制		来客用駐車場やサービスヤードを確保、周辺道路に歩道を整備	4.0	0.25	-	-	
6.4 廃棄物処理負荷			3.0	0.25	-	-	

LR-1 用途別得点表		学校	-	-	-	面積按分 総合スコア
		6020 m <sup>2</sup>	-	-	-	
1	建物の熱負荷抑制	4.0	-	-	-	4.0
3	設備システムの 高効率化	5.0	-	-	-	5.0
	個別設備による評価	-	-	-	-	
3.1	空調設備	5.0	-	-	-	-
3.2	換気設備	4.0	-	-	-	-
3.3	照明設備	5.0	-	-	-	-
3.4	給湯設備	5.0	-	-	-	-
3.5	昇降機設備	-	-	-	-	-